

<p>口絵</p> <p>刊行にあたつて</p> <p>凡例</p> <p>目次</p>	<p>IV</p> <p>II</p> <p>IV</p>
第一章 柴崎地区の成り立ちと生活空間	
<p>第一節 本編の目的と構成</p> <p>一 目的</p> <p>二 構成</p>	<p>2</p> <p>2</p> <p>2</p>
<p>第二節 地理</p> <p>一 位置</p> <p>二 地勢</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>3</p>
<p>第三節 歴史</p> <p>一 行政区域の変遷</p> <p>二 地区内の区分</p> <p>三 概略的な沿革</p>	<p>5</p> <p>6</p> <p>5</p> <p>9</p>
第二章 社会	
<p>第一節 本章の目的と構成</p> <p>第二節 自治会と自治会記念誌</p> <p>一 地方自治制度と自治会</p> <p>二 自治会の生い立ち</p> <p>三 自治会記念誌</p>	<p>26</p> <p>26</p> <p>26</p> <p>27</p> <p>33</p>
<p>四 自治会アンケートの考察①—成員と組織</p> <p>五 自治会アンケートの考察②—共有・協力</p>	<p>36</p> <p>38</p>
<p>第三節 明治～戦前・戦中期の町内</p> <p>一 柴一八幡会と公会堂文書</p> <p>二 「町内」の帳簿管理</p> <p>三 村政運営の記録</p>	<p>41</p> <p>41</p> <p>43</p> <p>41</p>
第四節 生活空間	
<p>一 村の生活空間</p> <p>二 水の環境</p> <p>三 ハケ・ハケウエ・ハケシタ</p> <p>四 住まいの環境</p> <p>五 生活空間の現在</p>	<p>19</p> <p>20</p> <p>20</p> <p>22</p> <p>23</p>
3 高度経済成長と以後の柴崎地区	
17	

3 念仏と日待 4 共有膳椀の記録

5 代参講中の記録

三 戦時下の「町内」と行政	47
第四節 自治村落と戦後の自治会	49
一 滝ノ上の村落組織	50
二 自治会の組織	51
三 滝ノ上にみる村落と自治会	54
第五節 戦後の自治会の展開	55
一 錦二の中町会の事例	55
二 高松町一丁目協力会の事例	57
三 富士見町住宅自治会の事例	59
第六節 若い衆・青年会	62
一 若い衆	63
二 青年組織の官製化	63
三 恒友青年会	64
四 柴崎地区の諸青年会	66
五 戦前期の青年団	68
六 戦後の青年会（青年団）	70
七 立川青年学級	72

第三章 産業・生業

第一節 本章の目的と構成	76
第二節 農業	76
一 農業	76
1 はじめに	1
2 土地利用と耕地	2
3 稲作	3

4 畑作	4
5 稲作・畑作の変化・減少	5
6 養蚕	6
7 梨の生産	7

第三節 製造業の盛衰

一 和菓子の製造販売——井筒屋	96
1 戰前の和菓子作りの大変さ	1
2 餅を四〇俵擣ぐ	2
3 終戦直後から昭和三十年代のマチの賑わい	3
4 戰後の菓子屋の好景気	4

二 一〇〇年続く畠屋——安藤畠店	101
三 始めたときは他人の玄関——カネコ靴店	102
四 鰯節の製造販売——三上鰯節店	103
五 コンニヤクの製造卸——原島食品工業	104
第四節 小売業	105
一 兄の時計店を譲り受ける——友生堂時計店	105
二 蝶の名前から付けたタバコ屋——ゼフィルス	106
第五節 飲食業	107

一 「たくあんとイカ」で始まつた「タコ焼き」―― たこやきや高橋	107	(二) 洗濯と衣類の管理 (二) 衣服の新調と購入
二 奈美喜庵	140	五 寝具
三 高尾亭 本店	141	第二節 食生活
第六節 その他の「サービス業」	110	一 日常の食
一 米軍基地と「軍需産業」	110	(二) 食糧の自給と調整 (二) 一日の食事
	109	(三) 食料
第四章 衣・食・住	107	二 季節の食と贈答
第一節 衣生活	114	(二) 年中行事 (二) 付き合いと贈答
一 衣料・衣服の作製	114	(三) 冠婚葬祭
(一) 養蚕と糸取り (二) 機織り	114	三 食材・食品の購入
(三) 着物の仕立と染め	114	(二) 店 (二) 引き売り・行商・屋台
二 日常の衣服	120	四 戰中・戦後の食生活
(一) 仕事着とふだん着 (二) 子どもの衣服	120	第三節 住生活
(三) 戰中戦後の衣服 (四) 被り物・履物	120	一 滝の上・井上昭春家の住まい
(五) 髮型・身だしなみ	120	(二) 主屋 (二) 屋敷地・付属建物 (三) 水利用
三 ハレの衣服	135	(四) 下肥と肥料 (五) 環境と自然
(一) 写真に見る戦時下の晴れ着・よそ行き	135	二 山中・五十嵐猪一家
(二) 人生儀礼と衣服	135	(一) 主屋 (二) 屋敷地 (三) 環境
四 衣服の管理・購入	138	(四) 行商と渡りの職人
	138	三 柴崎地区の住まいと暮らしのうつりかわり
		(二) 水利用 (二) 火と燃料
	180	
	170	
	170	
	168	
	165	
	156	

第五章 人生儀礼

第三節 出産と成長の儀礼

一 昭和三十年頃までの出産習俗

213 213

第一節 本章の目的と構成	198
第二節 婚姻儀礼	198
一 昭和三十年頃までの婚礼	198

恋愛、結婚話、見合い、クチガタメ、仲人、通婚圏、適齡期、結納、アシイレ、嫁入り道具、婚礼、嫁迎え、

よけの桃の葉湯、オビトキ

嫁の衣装と姿、嫁の行列、嫁の入家、結納返しと土産、婚礼の手伝い、アイサカヅキ、嫁婿の座る場所と雄蝶

二 出産習俗の変容	218
第四節 子ども時代のくらし	219

雌蝶の動き、前座敷、婚礼時の暖房、婚礼の宴会、子どものお呼ばれ、引き出物、西多摩地区の親戚からの御祝い、婚礼最中の忌み言葉と縁起担ぎ、後片付け、嫁の顔見せ、里帰り、夫婦の外出、独身者

二 婚礼の変容

太平洋戦争前後の恋愛、終戦直後の結婚式、家と家の

結婚式、結婚式場の施設、結婚式場で出す料理、引き出物の変容、新婚旅行、自営業家庭から農家に嫁に来た人の苦労、仙台から嫁に来た人の驚き	224
--	-----

第五節 葬送儀礼

一 昭和三十年頃までの葬送儀礼	224
-----------------	-----

アイの女性の仕事、山中のコウジュウ、無縁講、葬式

の見舞い、魔除けの刀物、死者への供物、湯灌、死に

装束、棺、納棺、通夜、葬式をしない日、葬儀の料理、

膳椀、土葬時の穴掘り、葬式の鉢、出棺、門出の念仏、

葬列の先頭、葬列・野辺送り、寺での葬儀、埋葬、葬

列の道、葬式のキヨメ、埋葬後のダンバライ、葬式後

の念仏、葬式料、死者の挨拶、北向きに掛ける死者の

着物、ブク、初七日までの墓参り、形見分け、四十九

日までの墓参り、四十九日、祝儀用・不祝儀用帳面の

違い、盆の間の葬式、産死者、火の玉、無縁仏、ニイ

ボンの提灯、年忌、最終年忌

一 葬送儀礼の変容

火葬への変化と地域の付き合いの変遷、葬祭場の普及
による変化、葬列に歩く者の服装、遺骨

第六章 年中行事

第一節 本章の目的と構成

第二節 年中行事の背景

暦と行事の配列 家の神と行事の場 普段の暮らしと

モノビのカワリモノ

第三節 暮れと正月

一 正月の準備

スストリ、スストリモチとニギリダンゴ、寺へのツケ
トドケと墓参り、歳暮、羽子板と弓破魔、餅搗き、ジ
ザイモチとカラミモチ、さまざま餅、オソナエ、年
神様、オカマジメと幣束、シメナワ・シメカザリ・ミ
キノクチ、門松

二 大晦日と正月

晦日市、大晦日の夜、大晦日と元旦の火、正月の仏壇
とブク、大正月・小正月、年男、雑煮、雑煮の供えか
た、正月の食物、初参り、年始、拝島大師、仕事始め、
寺年始、寒の入りと六日年越し、七草、蔵開き・鏡開
き

三 小正月

若餅、栗穂稗穂、繭玉、小豆粥・女の正月、サイノカ
ミ、初日待、万歳と獅子舞、ヤブイリと閻魔様とダル
マ市、山の神、エビス講、高幡不動

第四節 春・夏

次郎の朔日、天道念仏、節分、ヨウカゾウ、涅槃会、
初午、井戸縄ないと井戸さらい、二月の大風、出替わ
り、三月節供、春彼岸、代参講、道普請、堀さらい、

239 238

233

250

241 241

266

261

第七章 信仰

花祭り、春祭・春祈禱、養蚕の始まり、蛇籠ぶち、五月節供、五月の仕事、暗闇祭、六月の仕事、代かき、種ふり、苗取りと田植え、農馬、田植えの食事、半夏生、七夕、ノアガリと田植えの祝い、桃の市、キユウリの初なり、山中の天王様、田の草取り、田用水の管理と水争い、土用の丑の日、トッポシ	296
第五節 盆………	279
盆の日取り、盆供、中元・盆暮れ勘定、盆棚、迎え盆、無縁様、盆の供物、盆花、棚経、新盆、送り盆、盆の里帰り、大施餓鬼会、閻魔様	284
第六節 秋・冬………	
八朔、花掛け水と堰払い、イモホガケ、風祭り、二百十日、諏訪神社の秋祭り、お月見・十五夜、秋彼岸、生姜祭り、養蚕の終わり、お月見・十三夜、エビス講、オカマサマとオカマダンゴ、谷保天神のオカガラビ、和泉の地蔵、酉の市、ダイシガユ、イノコ、七五三・オビトキ、稻刈りとアキジノウ、麦まきの祝い、アナツプサギダンゴ、カワビタリ、ヨウカヅウ、御嶽御師の札配り、平方のお獅子様、クズハキ、味噌焼き、火の番、冬至	

第一節 本章の目的と構成………	296
第二節 寺社………	296
一 普濟寺………	296
(一) 沿革 (二) 年中行事	296
二 諏訪神社………	298
沿革、境内社、神職、氏子数の変遷、氏子と町会、氏子の組織と会議、祭事、神事、戦前の氏子組織	298
三 熊野神社………	307
沿革、神職、氏子と氏子組織、祭事、オカマジメ、境外末社、土俵（相撲場）、石碑、地域の行事 高松町パレード	307
第三節 「立川諏訪祭り例大祭」………	315
一 現在の「立川諏訪祭り例大祭」………	315
(一) はじめに (二) 「立川諏訪祭り例大祭」の概要	315
(三) 「立川諏訪祭り例大祭」の行事	315
(四) 「立川諏訪祭り例大祭」の運営	315
二 歴史的変遷………	322
(一) はじめに (二) 「諏訪神社例大祭」	322
(三) 「立川諏訪まつり」 (四) 町内会	322

(五) 神輿会	(六) 「立川市民まつり」
(七) 地域の中の「立川諏訪祭り例大祭」	
(八) おわりに	
第四節 諏訪祭り例大祭と地域社会	
一 はじめに	330
二 神酒所開き	330
(二) 町会の神酒所開き	330
三 諏訪祭り例大祭(土曜日)	336
(二) 町会	336
四 諏訪祭り例大祭(日曜日)	344
(二) 神輿会と町会による神輿の巡行	344
五 おわりに	354
第五節 さまざまな神仏	354
一 社と堂	355
(二) 浅間神社と富士塚	355
(三) 沢稻荷	355
(四) 原市場稻荷	354
(五) 豊川稻荷と大島神社	354
(七) 地蔵(下和田地蔵、芝中地蔵、滝の上の地蔵)	354
(八) その他(弁天、妙見跡、妙覚寺跡、航空神社と太陽神社跡、尺串神社跡、オシャモジサマ)	354
二 神々と祭り行事	391

(一) 山中天王祭と神輿	(二) 山中天王祭の変遷
(三) サイノカミと火祭り	(四) 稲荷と山の神
第六節 講	
一 念仏講	412
(二) 天道念仏	412
(二) 念仏講	412
(三) 御詠歌講	412
二 日待と代参講	416
(二) 日待と地域生活	416
(二) 日待と三つの代参講	416
三 巡行する神仏	424
和泉の地蔵、平方の獅子	424
第七節 共同祈願	430
第八節 家の神	430
一 屋内の神	431
二 屋外の神	431
第八章 民俗芸能	431
第一節 本章の目的と構成	433
第二節 近世柴崎村で行われた芸能	433
一 湯の花神楽・湯立て	436
二 太々神樂	436

三 祈禱の芸能	438
第三節 諏訪神社の獅子舞	
一 祭礼日の変遷	
二 現在の諏訪神社・八幡神社例大祭における	
獅子舞奉納	440
（二）準備・初顔合わせの儀　（二）練習	440
（三）中祝いの儀　（四）羽根差し・棒巻きの儀	439
（五）宵宮の儀　（六）祭礼当日	439
（七）羽根抜きの儀・鉢洗いの儀	438
三 伝承組織の変遷	
四 諸役	
（二）棒仕い・舞子　（二）下方	448
五 演目	
六 古獅子頭と獅子舞に関する諸記録	
（一）古獅子頭　（二）太鼓胴の記録	454
（三）「明神本社普請記録」　（四）「公私日記」	450
（五）「明治三九年第九月大吉日通帳」　（六）「棒組台帳」	448
（七）立川市獅子舞芸能保存会記録（三冊）	445
第四節 祭囃子	
一 番場囃子・柴一はやし連	465
（二）歴史　（二）諏訪神社例大祭での巡行	465
第五節 立川小唄	
卷末資料	
1 資料解題・例言	479
2 柴一八幡会公会堂所蔵文書目録	479
3 「棒組台帳」	479
引用・参考文献一覧	
協力者・協力機関	486
執筆担当者・市史編さん関係者	480
xiv	ii
XI	